

みよし市ゼロカーボンシティ推進計画（案）のパブリックコメント実施結果

1 計画名

みよし市ゼロカーボンシティ推進計画

2 実施期間

令和6(2024)年12月13日(金)から令和7(2025)年1月24日(金)まで

3 募集方法

任意の様式に住所、氏名、電話番号及び計画に対する意見を記載して、パブリックコメント実施期間内に企画政策課ゼロカーボン推進室へ郵送、ファクス、メール又は直接提出

4 募集結果

(1) 提出者数 1人

(2) 提出意見数 8件

5 寄せられた意見と本市の考え方

番号	ご意見の趣旨	市の考え方
1	ゼロカーボン化を推進することで、まちの魅力向上を図る方針については、大変良いことで大賛成です。	ご賛同いただき、ありがとうございます。 ゼロカーボン化を推進することで、まちの魅力度を向上させ、市民の皆さまにとって住みやすいまちを実現してまいります。
2	区域施策編の部門ごとの排出量割合の提示や割合ごとの排出量の特徴だけでは、市民も事業者も「そうなんだ」で終わってしまう。 どこで（誰が）、どれだけ排出しているか見える化しなければ腰が上がりません。	本計画においては、特定事業所排出者の割合は掲載しておりますが、各事業所の排出量などは掲載しておりません。 排出源の具体的な業種を特定し、二酸化炭素排出量削減の推進に向けた脱炭素プラットフォームの活用などによって、本市としても主体的に取組を働きかけてまいります。
3	事務事業編は2013年度比で2023年度に24%削減されているが、再エネ比率が高い電力を買うだけでは実質的な二酸化炭素削減につながっていないのではないかと。 事務事業編の削減目標は2013年度比で51%削減に設定されているが、例えば70%削減などの刺激的な目標でなければ削減が進まないのではないかと。	再生可能エネルギーを含む排出係数が小さい電力を活用することで、二酸化炭素排出量削減につながりましたが、今後は、公共施設の脱炭素化に向けた調査およびロードマップの策定を行い、さらなる脱炭素化に向けた具体的な数値目標を更新してまいります。

4	<p>事務事業編において、公共施設や病院などの二酸化炭素排出量削減の取組方針を具体化している点は良いと思う。</p> <p>横浜市の全小中学校では、屋上に太陽光発電を設置するとともに、教育の題材として提供しているため、みよし市も見習いたい。</p>	<p>公共施設には、可能な限り太陽光発電設備を設置する方針であり、設備の導入を進めてまいります。</p> <p>本市においても環境教育に活用しており、今後もより一層環境教育の充実に努めてまいります。</p>
5	<p>3本柱に新技術として水素を掲げていることは大変良いと思う。</p> <p>みよし市水素利活用ビジョンの策定にも大賛成である。</p> <p>ビジョンの図における、水素・アンモニアを活用した火力発電や海外からの水素輸入は、みよし市とは関係ないのではないかと考える。</p> <p>また、港湾部からのパイプライン輸送は、本当に実施するのか。</p> <p>太陽光を中心とした市内での再エネ由来水素製造が、二酸化炭素削減のキーだと考える。</p> <p>その際には、屋根置き太陽光を中心とし、森林伐採につながるメガソーラーの設置は反対である。</p>	<p>水素利活用ビジョンにおいては、水素利活用の全体像を示した上で、本市の役割と活用方針を示しています。</p> <p>そのため、直接的には関係がない火力発電などの活用も記載しています。</p> <p>市内で導入可能な太陽光発電規模と水素製造のコスト面から現時点では水素製造は検討しておりませんが、ペロブスカイト太陽電池などの技術革新の動向を注視しながら、再生可能エネルギー由来の水素製造についても検討してまいります。</p> <p>また、太陽光発電の導入においては、屋根置き太陽光発電のほか、森林伐採を伴わない、ため池を活用した水上太陽光発電について検討してまいります。</p>
6	<p>飲食店や水素スタンドの撤退など、三好ヶ丘を含む北部地区の発展の停滞に残念な思いを持っている。</p> <p>大企業の税収に頼るだけでなく、名古屋市や豊田市につながる鉄道の駅なども活かしながら市の発展につなげていただきたい。</p>	<p>総合計画や都市計画マスタープランにおいて、地域の発展を検討してまいります。</p> <p>ゼロカーボン推進室としても、脱炭素と関連させながら産業振興を図り、地域の持続可能な発展を目指してまいります。</p>
7	<p>行政、議会、企業が一緒になって自発的にチャレンジする姿を見せ、それが市民の目に見えることで、市民一人ひとりの行動を誘起する事業を起こせないか。</p> <p>例えば、「さんさんバス」を、グリーン水素を用いた燃料電池自動車に切り替え、燃料は市内の太陽光発電を用いた水電解によって製造する事業などを行ってはどうか。</p>	<p>ご提案いただきありがとうございます。</p> <p>実証事業の一案として参考にしてまいります。</p> <p>具体的な実現可能性を評価し、市民の皆さまに見える形での取組を進めてまいります。</p>

8	<p>愛知県がアイシンや関係事業者と進めようとしている「ペロブスカイト太陽電池(PSC)普及拡大プロジェクト」への参加を検討していただきたい。</p> <p>「県」や「事業者」との「仲間づくり」を行うことが大事だと考える。</p>	<p>先日、愛知県から県内自治体に対して、本プロジェクトの支援に向けた「あいちペロブスカイト太陽電池推進協議会」の設立及び構成メンバー募集の案内があり、本市においても応募を検討しているところです。</p> <p>現在も県が事務局を務める「中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議」に加盟するなど広域的な協力体制の構築を図っておりますが、今後も引き続き、脱炭素に関する外部動向に注視しながら、国、県及び事業者等との連携を強化し、ゼロカーボンシティ実現に向けた取組を推進してまいります。</p>
---	---	--